2014 ボランティア・NPO 活動ニュース
県北版【６月号】vol.92

んだすな

まちなかトーブ
村岡さんにお会いしました。

平成 25 年、第９回三国こども震災支援ファンドに採択（白い風と遊ぼう）され、５０万円の助成金をうけて活動された北秋田市で地域活性化に取り組む市民団体「まちなかトーブ」代表の村岡典子さんにお話を伺いました。

村岡さんは 2011 年３月 11 日、東日本における福島第一原発事故発生のため、外出も自由にできないことから子どもたちとその親たちへの支援をしたいと福島県川内村川内小学校へ招待の声をかけ、平成 24 年親子 21 名を北秋田市へお招きしました。川内村の児童からは線量計のことを気にせず秋田での滞在を心から楽しんだお礼状が届いたことをきっかけに、「被災地の子どもたちが夢を持って暮らせるよう、小さな支援でも行動に移したい」と、秋田スギッチファンドに応募しました。

今回は秋田県内で避難生活を送られている福島県の親子・祖母と孫等と岩手県田野畑村の親子・祖母と孫等約 40 人を北秋田市へお招きしました。

福島県の親子等については、県から依頼された「お菓子づくり（かぼちゃのタルト）」を通じて。岩手県の田野畑村の親子等については、震災当初から 20 回近く被災地を訪れ支援を行ってきましたが、友人の米澤さんから「被災者の本当の声が聞きたい！お手伝いしたいところはたくさんあるが、ここの田野畑村を見続けていかないか」と告げられ、田野畑村村民の生の声を聞きながら現在も継続して行っています。

自宅は健在だが福島原発の圏内ゆえに住むことが出来ず避難してきた親子等と、津波で全てを失った田野畑村の親子等では立場の違い等もあり少し心配しましたが余計なことでした。
避難してきた福島原発の親子等は、周りの気遣いなどもありなかなか交流できずにいることや、お互いの現状を打ち明けたりしながらなかなか話が止まらなかったようです。最初暗かった子どもたちも遊び等を通して触れ合うことでだんだんと眼の色が違ってきた様や、また田野畑村の親子等は、秋田はどんなところか、どうやって行くのか等、本や地図で調べたりしながら道中を楽しんで来たことをとてもうれしそうに話されました。

村岡さんは福島県川内村と岩手県田野畑村の人々とは毎月近況報告などメール交換をしていて、無理をせず継続していきたい、また「子ども支援」も続けていきます！と力強く話されました。

あきたスギッチファンド情報

みんな元気で～～す!!!

最後に、今までもこれからも私一人ではとても出来ないこと。いろいろな方にお世話になりながらきました。ボランティアさんは会を重ねるごとに増えてきて本当にうれしい、と満面の笑顔でした。

向かって左から村岡典子さんと米澤美保子さん

・・・これから・・・

- ６月末、今年の３月に開通した「三陸鉄道」に、田野畑村の子どもたちと一緒に乗車を計画中
- 今秋、乗り物好きな子ども達と、「あきた内陸線と北秋田市の熊牧場めぐり」を計画中

・・・「助成金」について・・・

事業を起こすにあたって、団体個人で頑張っていることが多いと思います。私たちもそうでした。ファンドも知らない、ましてどこに申し込めばよいのかさえ分らず頑張っていました。でも言葉にすることによって人から人へとわたり北部市民活動サポートセンターにたどり着き、今回で２回目の助成金を受けられました。助成金があると先への不安はだいぶ解消されます。とても大事なことです。ファンドを使用した人が成果を報告するなど伝える努力をしていかないといけないと感じています。私は事業を行う前にファンドのことをスタッフに話します。また最後の報告書にはスギッチファンドのパンフレットをつけて配布するようにしています。
少しでもお返しが出来るよう頑張ります。

研修視察を終えて

平成26年5月26日（月）27日（火）の2日間、高齢者等支援施策調査企画事業の一環として宮城県仙台市の地域生活支援「オレンジネット」と特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンターを視察して来ました。

高齢者等支援施策調査企画事業は、大館市在住高齢者の生活実態のニーズ調査です。

1日目は、宮城県仙台市泉区を基盤に活動している地域生活支援「オレンジネット」です。代表の荒川陽子さんと高橋事務局担当から、「困ったときはお互い様」、幼児・児童から高齢者まで地域の全ての人々を対象に、居場所づくりや障がい児の送迎などの支援相談・その他地域住民の困っていることを一手に引き受けて活動している状況を伺いました。

「人のつながりが自分を助け、人助けになる」をモットーに、まず地域の支援体制ネットワークづくりをはじめ、【知的面】では地域療育センターや障がい児の学童保育・放課後ケアＮＰＯ等７団体、【身体的な面】では仙台市身体障害者協会やＡＬＳ難病支援センター等８団体、【高齢者】では地域包括支援センターや民生委員等12団体、【精神面】では病院や仙台市精神障害者保健福祉総合センター等７団体と連携をとっています。行政から地域の商店まであらゆる人・団体を巻き込んで活動をしています。

【オレンジネット】高橋さんと

「ひなたぼっこ」スタッフの皆さんと

2日目は、地域の総合生活支援の拠点である「ひなたぼっこ」を運営している宮城県仙台市青葉区の特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター（通称ＣＬＣ）です。田所グループ長と木皿主任から運営内容、現在の取り組み、課題等伺いました。活動が広範囲にわたることや、地域住民の困りごとに24時間365日対応していること、またそれらを15人から16人のスタッフでこなしているとのことです。専門職ボランティア（看護師・介護士等）が必要に応じて配置され、緊急時に対応できることが大きな特徴であり、一時宿泊も可能とのことでした。お弁当の配食をしながらの会話や見守り、通常の行政の制度で対応出来ないことなど住民の要望に対して、工夫や知恵を絞って活動をしています。

今回の研修で地域社会において障がい者やその家族、生活困窮者等、あらゆる年代が支援を求めていることを再認識しました。2ヶ所の研修先での高い理念と活動内容、組織リーダーの行動力やスタッフの素晴らしさ。民間では採算問題・行政は制度の課題、しかし地域住民が困っていることに対して果敢に活動していることに「眼から鱗が落ちる」想いで研修を終えました。（高齢者等支援施策調査企画事業：松坂敏悦）

長野県松本市長

菅谷 昭氏 講演会

「こどもたちの未来のために」

放射線被爆による健康影響

ーチェルノブイリ事故の医療支援活動を通してー

開催日	2014年6月28日（土） 開場9：30
会　場	能代市文化会館　中ホール 能代市追分町4－26
入場料	450円【全席自由】
内　容	第1部　菅原昭氏　講演会　10：00～12：00 第2部　デスカッション　13：00～15：00 福島で支援活動を続けている 看護師　井上真由美氏

お問合せ先：電話　090-9538－0810

（土日祝日を除く　平日9：00～17：00）

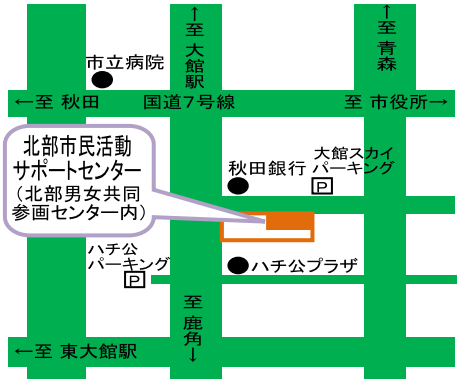
Mail　kodomira.noshiro@gmail.com

こども未来ねっと能代　担当：佐藤

http://ameblo.jp/kodomomirai-noshiro/

んだすな

『んだすな』には、人と人が願いを共感し、協力し合えたらという想いが込められています。



編集：北部市民活動サポートセンター
〒017-0842
秋田県大館市字馬喰町48-1
・TEL．0186-49-8553
・FAX．0186-49-8589
・http//www.akita-kenmin.jp/north-support-center/
・E-mail　angec1@io.ocn.ne.jp